

# 「タンポポ調査・西日本2010」実行委員会 第3回スタッフ会議報告

【日時】 2008年12月6日(土) 午後1時半～5時

【場所】 大阪自然環境保全協会新事務所

【出席者】 布谷(滋賀)、鈴木・武田(兵庫)、高島・木村・名波・横山・宮田・神田(大阪)、  
村田(京都)、河村(三重)、小川(徳島)、末広(香川)、松井(愛媛)、井上(島根)、以上15名

【司会】 高島(大阪自然環境保全協会) 【記録】 木村(同)

## 【案件】

### (1) 前回の報告(別紙、第2回スタッフ会議2008.8.30参照)

- ① 「タンポポ調査・西日本2010」の調査体制について
- ② 「タンポポ調査・西日本2010」の調査方法について

### (2) 調査方法についての検討事項

#### ① 調査地点の表し方について

- ・従来のメッシュコードから、緯度・経度での記載に変更してはどうかという意見が出された。調査の根幹にかかわる重要な内容であり、慎重に議論をした結果、「緯度・経度」のみにしてしまうと、生徒を対象に行なう学校などでは記載が難しいことも考えられるので、今回の調査では、可能な限り「緯度・経度(世界測地系)」を記載してもらい、それが困難な場合は、従来の「メッシュコード」でもよいことに決定した。詳細については、調査用紙の印刷までに、大阪自然史博物館の佐久間氏の意見も聞いて決定したい。
- ・「緯度・経度」の検索については、「国土地理院」のホームページから検索することを基本とし、その他、「他のホームページ」や「携帯電話」などから検索することも可としたい。ただし、「世界測地系」によるものに統一しなければならず、その点が間違いなく調べられるような方式を模索する必要がある。
- ・「緯度・経度」のデータの記載方法としては、「国土地理院」のHPでは、地点にカーソルを持っていくと、たとえば経度では、「東経135度45分15秒」という表記と「東経135.750132度(小数第6位まで)」という表記との両方が表示される。いずれを記入してもよいことにしたい。1秒は約30mなので、それ以下まで記載する必要はないだろう。
- ・メッシュコードについては、前回と同様に「旧環境庁の緑の国勢調査時に発行された府県別のメッシュ地図帳」や「博物館ネットワークのホームページから検索するシステム」を利用することができる。ただし、後者については、メッシュコードとともに表示される「緯度・経度」が古い測地系によるものであり、誤って記載すると混乱を招くおそれがあり、使わないほうが良いという意見も出された。

- ② 雑種タンポポの解析の体制・・・前回と同様に、大阪市大(伊東・名波先生)では、体制に大きな変化がなければ、前回程度であれば可能というお返事があったので、お願いしたい。他のブロックでも可能であれば追加的な解析をしていただいてもよいが、西日本全体の調査結果を同じ精度で比較するためには、同一機関で同じ方法で分析することが重要であり、これは大阪市大にお願いしたい。

### (3) 調査用紙の改訂すべき点

- ① 「近畿2005」を「西日本2010」に変える。関連変更。
- ② 調査地点の現し方

- ・前回2005年調査では「住所か目標物」を必ず記入し、可能な限り「メッシュコード」を記載してもらった。

● 調査地点のメッシュ番号(★2 右ページ参照、できるだけ記入して下さい)

・メッシュ番号 

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	-	<input type="text"/>	<input type="text"/>	-	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---	----------------------	----------------------	---	----------------------	----------------------

- ・今回は、「住所か目標物」に加えて、可能な限り「緯度・経度」または「メッシュコード」を記入してもらうことになった。それにとまって、緯度・経度の調べ方についても記載する必要あり(国土地理院HPより検索)。

● 調査地点の「緯度・経度」(世界測地系)またはメッシュコード番号 (★2 右ページ参照、できるだけ記入して下さい)

記入例	1 3 5 . 7 5 0 1 3 2	度	1 3 5	度	4 5	分	1 1	秒
北緯		度		度		分		秒
東経		度		度		分		秒

・メッシュコード

				-				
--	--	--	--	---	--	--	--	--

- ③ 4. タンポポの種類 で、3.花は白色(シロバナタンポポ)とあるが、白色にはキビシロタンポポも含まれるので、3. 花は白色(シロバナタンポポなど)と変更する。
- ④ 大量に調査する個人への対応→封筒を作らなくても、記録欄(A4判1枚のみ)だけを印刷し、小袋の代わりに普通の封筒にタネとティッシュに包んだ頭花とを入れて、ホッチキスで調査用紙に貼り付けるといった方法もある。または、ホームページから記録欄だけをダウンロードできるようにしておく。
- ⑤ その他、何かお気づきの点があれば出してください。

(4) 予備調査実施要項・サンプル処理マニュアルについて

- ① 予備調査実施要項(第1版).....別紙
- ② サンプル処理マニュアル(案).....別紙

(5) 予備調査説明会(3月1日実施)について...詳細は次回のスタッフ会議で検討

- ① 予備調査現地説明会(一般参加者向け、於、長居公園・大阪市立自然史博物館)
  - 1) 日時 2009年3月1日(日)10時~12時
  - 2) 集合 午前10時「長居植物園入口」
  - 3) 役割分担 ・司会・進行(高島)・あいさつ(布谷)・緯度経度とメッシュ番号検索(佐久間)・調査方法説明(木村、または、鈴木)
  - \*日程と内容
    - 1) 9:30~ 集合場所で受付開始(参加者カード)、10:00~開会のあいさつ・諸連絡
    - 2) 10:10~ 調査方法の概要の説明+メッシュコード検索の演示(集会室)、
    - 3) 11:00~ 長居公園内でタンポポウォーキングータンポポ(外来種)を探して植物観察。調査方法やタンポポの見分け方・調査用紙への記入方法を説明
    - 4) 11:30~ 質疑応答・各府県からの報告・連絡(12:00までには解散予定)
- ② タンポポ識別講習会(於、大阪市立自然史博物館実習室)
  - \*日時 2009年3月1日(日)13時~16時、博物館職員通用口からタンポポの講習会参加と申し出て入館し、会議室に12時30分までに集合。
  - \*日程と内容(役割分担)
    - 1) 12:30~ 受付-参加者カード(午前中のもを流用)
    - 2) 13:00~ 開会のあいさつ( )
    - 3) 13:10~14:00 第2回実行委員会
    - 4) 14:00講習開始: 外来種と在来種の識別・在来種の同定・花粉の顕微鏡観察実習
      - \*見分け方の図・写真・光学顕微鏡等準備(佐久間氏に依頼)、識別講習のためのサンプルは参加者が各自持参。データ入力方法も確認。
    - 5) 質疑応答、今後の予定の確認後、解散
  - \*この会議終了後、KONC(関西自然保護機構)より、この日の午後に博物館大ホールでKONCとの共催で「タンポポ調査」に関するシンポジウムを開催してはどうかという申し入れあり。シンポジウム後、KONCは総会を開催し、我々は実行委員会を開催することになる。現在、検討中。詳細が決まり次第、連絡する。

(6) 調査委員会の会計・予算について

- ① 前回の残金：現時点では「約19.8万円」。講師謝礼・会場費・連絡費等で使用。  
 なお、大阪市大の伊東・名波氏より、タンポポ調査の研究で受賞した「四手井賞」の賞金(5万円)を、タンポポ調査委員会へ寄付していただいた。
- ② 予算の見積もり
  - ・前回同様に、助成金などを獲得する必要がある。すでに申請したものはだめだったので、下表のような環境関係の助成機関をリストアップした。今後、書類を取り寄せて○印のものから申請していく。
  - ・本調査を含めた必要金額として、2005年の近畿の調査では7府県で約350万円の助成金を使ったので、今回は約500万円必要だろう。今後、分担して可能性のあるところに申請していく。
- ③ 助成団体の選択

前回調査時の助成団体	金額	担当	今回の可能性・新規	締切り	担当
1 日野自動車	45万	布谷	同一団体が可能か?	7/末	
2 タカラハーモニクス	50万	木村	同じ団体は資格なし	3/末	
3 NACS-J	80万	木村	再申請が可能か?		
4 河川環境管理財団	175万	伊東	1件200万まで、	9/末	
新規助成団体	締切り	金額	申請	結果	備考
5 富士グリーンファンド	5/19	365万	木村	否	競争率高い
6 地球環境基金	1/25('08)	平均400万	○		6月中旬に申請
7 イオン財団	8/31('07)	総額1億			
8 サントリー					文系研究、自然は鳥
9 セブンイレブン	1/31	上限360万	○		2~3年間
10 東京ガス	2/29('08)	上限100万			総額1000万
11 ニッセイ財団	4/14('08)	平均200万			総額4000万,研究

\*○について、申請準備を進める(担当：木村・布谷)

\*その他、企業に働きかけて協賛団体を募るという提案も出された。いくつかの企業を絞って、社会貢献部門担当者にあたってみてはどうか。

- ④ 当面の必要経費：当面予備調査の調査用紙の印刷が必要になってくる。前回は7府県で30万円弱だったので、今回も同様に印刷するなら50万円程度は必要か?大阪市大より、35万円程度なら調査用紙印刷用に支出できる可能性があるという申し出があった。府県別に一定部数を印刷し、不足の場合は各府県で増すプリーしていただく。また、HPからダウンロードすることを可能にして経費を節約する。

(7) 各府県別の参加状況と事務局 (○：決定、△：検討中?：未定・・・詳細は別紙)

	番	府県名	参加	事務局、及び事務局候補	実行委員候補
近畿地方	18	福井	○	○ 中池見...	横山
	24	三重	○	○ 三重連絡会	木原 川原
	25	滋賀	○	○ 琵琶湖博物館	布谷
	26	京都	○	○ 京都学園大学	今村 村田
	27	大阪	○	○ 大阪自然環境保全協会	高島 木村 伊東・志賀
					佐藤 神田 横山・宮田
	28	兵庫	○	○ 県立人と自然の博物館	鈴木 武田
	29	奈良	○	○ (奈良教育大学)	久保田 河合 谷?
	30	和歌山	○	○ 県立自然博物館	内藤 高須
	中国地方	31	鳥取	○	○ 県立自然博物館
32		島根	○	○ 三瓶自然館	井上
33		岡山	○	○ 倉敷市立自然史博物館	狩山
34		広島	○	○ 広島県高等学校教育研究会理科部会生物部	平山 吉野

	35	山口	?	?	未定			
四 国 地 方	36	徳島	○	○	県立博物館	小川		
	37	香川	○	○	香川大学・香川植物の会	末広		
	38	愛媛	○	○	東雲短大	松井		
	39	高知	○	△	(牧野植物園)	藤川	田中	
九 州	40	福岡	△	△	九州大学博物館・北九州 市立自然史博物館	三島	真鍋	

\*今後の課題

- ① どのようにして、実行委員を増やしていくか?→候補をあげて依頼する。各府県事務局が決まれば、県内で募っていただく。
- ② 事務局が決まっている府県に、所定の用紙でアンケートを行なって集約(別紙))
- ③ まだ、事務局が決まっていない山口県に対する働きかけを行う。

(8) そのほかの検討事項

- ① 「タンポポ調査・西日本2010」実行委員会のホームページについて
  - ・独立させることも検討したが、当面は事務局である大阪自然環境保全協会のHP内におく。管理は引き続いて佐藤治雄氏(大阪自然環境保全協会)にお願いする。
  - ・仮運用してきた「タンポポ調査・西日本2010」のHPを7月1日よりデザイン(大阪・横山さん)も改めて本格運用を開始。
  - ・事務局が多忙で中身はまだまだ十分ではなく、今後早急に拡充を図りたい。データを横山さんに送り、体裁を考えて佐藤氏に送ってアップしていただく。
- ② メーリングリストについて
  - ・調査範囲が広がり、なかなか会合をもてないので、実行委員を中心にメーリングリストを運用し、情報交換や意見交換を行っていくことになった。
  - ・5月31日に村田氏(京都)にタンポポ調査2010MLを作っていたいただいた。希望する方に加わっていただき拡充しつつある。本日、各府県の実行委員の名簿が出てくるので、その方に意思を確認してMLに加えていく。
  - ・今後は、実行委員中心のMLだけではなく、一般向けのMLを別に設定することが決まった。MLの管理は村田氏(京都)にお願いする。
- ③ (名義)後援団体について
  - \* 前回は「環境省(自然環境局生物多様性センター)」「日本環境教育学会」「大阪府」「兵庫県教育委員会」「滋賀県教育委員会」「和歌山県教育委員会」「和歌山県」「奈良県教育委員会」などの後援をいただいた。
  - ・環境省・文部科学省・日本環境教育学会・西日本自然史系博物館の全国的な組織に対しては、事務局から近々依頼する(予備調査・本調査の2年分まとめて可能か)。各府県や教育委員会などについては、必要に応じて各府県の実行委員会から依頼してほしい。なお、依頼文書の文案は事務局で作成したものを利用可能。

(8) 今後のスケジュール

2008年	12月6日(土)	第3回スタッフ会議(各府県事務局確定→調査用紙印刷)
	12月～3月	実行委員会への参加・予備調査参加の呼びかけ
2009年	3月1日(日)	第2回実行委員会、兼現地説明会・講習会
	3月～4月	各府県・ブロックでの説明会・講習会の開催
	3月～5月	予備調査の実施→調査用紙回収
	5月～6月	調査用紙・サンプルの処理・花粉観察・データ入力
	6月～8月	予備調査結果の解析→中間報告書の作成(~12月)

11～12月	第3回実行委員会（本調査に向けて）
～12月末まで	本調査時の事務局の確定と調査用紙の印刷
2月～3月	第4回実行委員会、兼現地説明会・講習会
3月～5月	本調査の実施
6～12月	本調査結果の解析（西日本全体・各府県別）
2011年 3月まで	最終報告書の作成

2010年

### <当面の予定>

- ① 調査用紙印刷・発送・・・ 2月中旬（目標）
- ② 第4回スタッフ会議
  - ・日時：2009年2月14日（土）午後1時半～4時
  - ・場所：大阪自然環境保全協会事務所
  - ・内容：3月1日の説明会準備他
- \*第5回スタッフ会議
  - ・日時：2009年6月27日（土）
- ③ 第2回実行委員会、兼、現地説明会・講習会
  - ・日時：2009年3月1日(日) 午前10時～16時
  - ・場所：大阪市立自然史博物館 集会室(午前)、実習室(午後)
  - ・午前(10～12時)：タンポポ調査の方法に関する一般向けの現地説明会
  - 午後(13時～16時)：第2回実行委員会・実行委員向けの講習会
- ④ タンポポ調査サンプル検討会(於、大阪市立自然史博物館実習室)
  - ・日時 6月27日(土) 時刻：未定
  - ・場所：未定
- ⑤ 3～4月の予備調査前か調査前半に、3月1日の説明会の内容を各地域に伝達して、調査参加者を増やすために、各ブロック・各府県で調査説明会や講習会を開催していただきます。必要に応じて、前回の結果をまとめたカラーチラシや、調査実施要項などをお送りします。また、依頼があれば講師として近畿のメンバーが参加。

#### \*次回会議までにしておくべき課題と担当者

1. タンポポ調査2010の呼びかけ・実行委員の募集文の作成、予備調査実施要項の完成(高島・木村)→ホームページへのアップ(横山・佐藤)
2. メーリングリストの拡充(村田)←事務局・実行委員の把握(高島)
3. 対象地域の団体・個人に、タンポポ調査への参加を働きかける  
第2回実行委員会への参加を要請(全員)
4. 各府県の実行委員・事務局の決定(各府県実行委員、鈴木・木村で依頼、高島から記入用紙を送付回収)
5. 助成金の検討と申請書の作成(木村・布谷)
6. 全国組織の後援名義申請書の作成・発送(高島)。
7. 事務局未定の府県への働きかけー各メンバーが知っている団体や個人に、調査参加への呼びかけ文(+実行委員の募集案内)を送る。
8. その他

2009. 1. 1

様

「タンポポ調査・西日本2010」調査実行委員会事務局

## タンポポ調査・西日本2010への参加のよびかけ

大阪で1974～1975年に初めてタンポポを指標とする市民参加による環境調査を実施して以来、全国各地で在来種と外来種のタンポポの分布状況から、地域の環境について知ろうとする「タンポポ調査」が続けられてきました。ところが、1990年代に入って在来種と外来種のタンポポの間に雑種が形成されていることがわかり、タンポポ調査の意義について疑問が出されたこともあり、あまり行われなくなりました。そこで、2004～2005年に近畿全域で雑種タンポポも含めたタンポポの分布調査を行い、雑種を含めた外来種の分布拡大の状況を明らかにしようと考え、近畿7府県によびかけたところ、3万点余りのサンプルが得られました。その結果を集約し、1970年代の結果と比較することで、近畿地方での外来種タンポポの分布の拡大状況が明らかになりました。また、得られたサンプルのうち、1千近くのサンプルの雑種解析を行い、すでに報告されている関東や全国調査での数値に比べると、雑種の比率はやや少ないものの、近畿全域にかなり広がっていることが確認できました。

そして、前回調査から5年後の2010年にも近畿地方で調査を実施しようと考えていたところ、鳥取・島根・岡山・徳島の博物館などからもいっしょにやりたいという申し入れがあり、この際、カンサイタンポポの分布域に調査範囲を広げて調査を行ってはどうかということになり、現在、四国・中国地方のタンポポ調査に興味をお持ちの方々にも調査活動への参加を呼びかけています。2008年1月には大阪で準備会を開き、雑種タンポポに関する講演会を開催し、多数の賛同が得られたので、4月には倉敷市立自然史博物館で第1回の実行委員会とその発足を記念した講演会を持ちました。現在、山口県を除く近畿・四国・中国地方の各府県で調査実行委員会が結成され、2009年3月～5月に予備調査を行うことにしています。ぜひとも、タンポポ調査実行委員になっていただき、2009年春の予備調査・2010年春の本調査へのご協力をよろしくお願いいたします。詳しくは、下記のホームページをご覧ください。また、近畿・四国・中国地方で、タンポポ調査に取り組んでいただだけそうな方や団体があればご紹介下さい。

なお、一般向けの調査の説明会や、調査サンプルの処理を行なうスタッフ向けの研修会を下記の日程で計画しています。ぜひ多数ご参加下さい。

- ・日時：2009年3月1日(日) 午前10時～12時 一般向け調査説明会  
同日 午後1時～4時 スタッフ向けのサンプル処理の講習会
- ・場所：大阪市立自然史博物館(JR阪和線・地下鉄御堂筋線「長居」下車、徒歩10分)

「タンポポ調査・西日本2010」調査実行委員会事務局(木村・高島) [tampopo2010@nature.or.jp](mailto:tampopo2010@nature.or.jp)  
ホームページアドレス：<http://www.nature.or.jp/Tampopo2010/Tampopo-index.html>  
(社)大阪自然環境保全協会(電話：06-6242-8720 FAX：06-6881-8103)  
〒530-0041 大阪市北区天神橋 1-9-13 ハイム天神橋 202

2008年(平成20年)1月30日 水曜日

### 西日本タンポポ調査

2010年に西日本の市民団体が協力し、タンポポの分布を一斉調査する準備が進んでいる。1970年代から環境指標としてタンポポに注目し、在来種と外来種の分布調査を続けてきた大阪自然環境保全協会をはじめ、近畿、中国、四国などの組織が参加する見通し。今月19日の準備集会では、在来種と外来種の雑種の取り扱いなどについて意見が交わされた。

大阪府での5年ごとの調査では、在来のカンサイタンポポが減り、開発された土地に外来のセイヨウタンポポなどが増える傾向が指摘されてきた。05年には近畿の他府県も含めた調査を実施したこ

とから、さらに範囲を拡大。カンサイタンポポの分布域をほぼカバーできる調査になるという。

② タンポポ調査2010の対象地域と参加状況

